令和６年度　和歌山県立高等看護学院自己評価結果

【当学自己評価の実施経過】
平成 19 年度より自己点検・自己評価を実施し、結果を HP で公表。
令和３年度より更なる教育の質保証と向上を目指し、評価システム全般の見直し開始。
令和６年度より活きる学校評価を目指し、自己点検・自己評価委員会規定を学校評価規定に改正。
新たに学校関係者評価委員会設置し、R6 年５月第１回を開催。その後の一年間の取り組み評価を受ける。

【報告内容】
令和６年度自己評価結果を**『総括的評価』『重点課題評価』**により報告する。

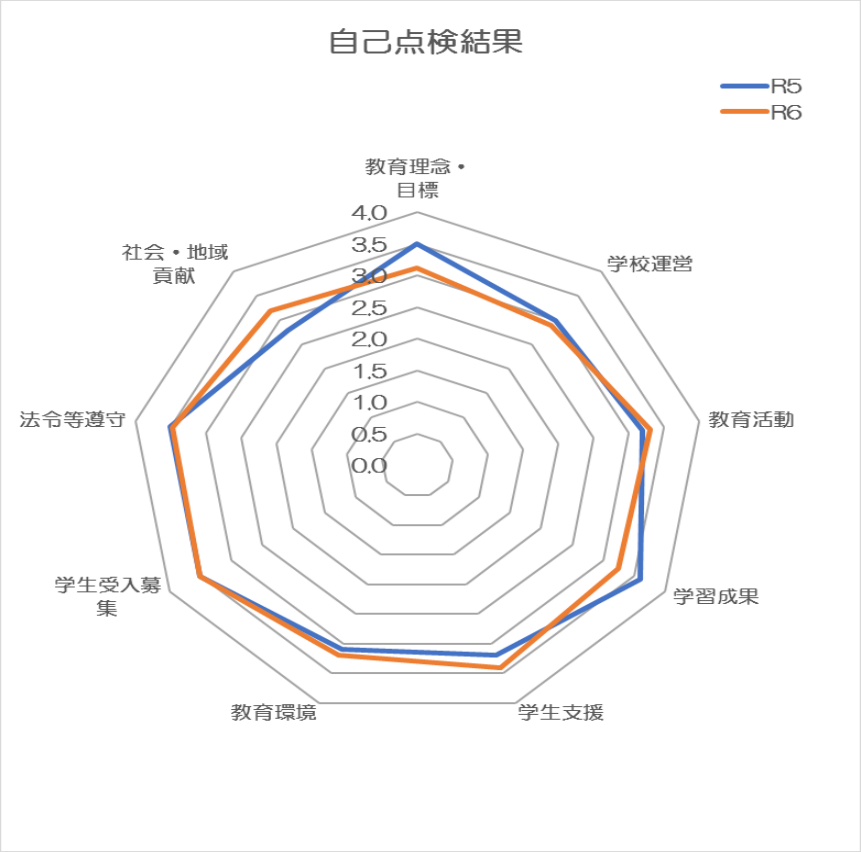
【総括的評価】
１．評価基準（専門学校等評価基準 Ver.4.0 を基に作成した９領域 65 項目）点検結果
９領域：①教育理念・目標　②学校運営　③教育活動　④学習成果　⑤学生支援
⑥教育環境　⑦学生受け入れ募集　⑧法令等遵守　⑨社会・地域貢献
２．教育実績（学生：入学・卒業・退学・国家試験・就職状況等　教員：ラダー・研修・学会等）

【重点課題評価】
１．年度における重点課題の実施結果

ビジョン	変化にしなやかに適応し、“看護が好き”と、生涯にわたり活き活きと実践し続ける質の高い看護師を輩出する学院
組織目標	Ⅰ．教育内容の充実：アップデートしながら最善を追求する教育 Ⅱ．教職員の人材育成：個の尊重と成長・組織としての成長を目指す人財育成 Ⅲ．教育環境の整備：いきいきと学ぶ・働く環境の保証 Ⅳ．学生確保：学生・学院双方のニーズがマッチングする学生の確保
R6 年度 重点課題	Ⅰ．教育内容の充実 １．新カリキュラム（以後新カリと略す）３年目の実施・評価 ２．学生個々の強みに応じた学習支援（R5・６年度強化期間） Ⅲ．教育環境の整備 １．DX 社会に適応できる教育環境の整備 ２．安全・安心な環境を保証する合理的配慮指針の確立 ３．組織における協働体制の確立

和歌山県花（梅）をモチーフにデザインした本校の教育

【令和６年度　総括的評価】



1. R5 年度自己評価基結果をもとにした R6 年度取り組み

1）教育理念・目標：教育をデザインに表し（梅の花）、より身近なもの（教育実践展開）となるよう学院の教育を教職員・学生・保護者・関係機関に周知を実施。
デザインのシール化・配布の実施により、常に身近で確認する機会を確保。

2）学校運営：学生の意見を聞く機会の確保。（管理者と話す機会設置・相談窓口拡大）

3）社会・地域貢献：近隣地域の祭りと学院祭の同日開催。地域ボランティアに参加。
コロナ禍で中止していた地域住民の授業協力（模擬患者等）再開。
地域医療機関との連携強化：
公開授業・模擬患者依頼・「地域で育てる看護師教育を考える会」開催。

2. 結果分析

1）取り組み後に自己評価が低下した。「理念・目標等をもとに教育が展開できているか」といった実践を問う点検項目で「やや不適切」が多く全体の評価が低下していた。R6 年度は、上記取り組みに加え、重点課題でもある新カリ評価への取り組みが多かった。
このことから、教育の理解が深まった反面、実践不足の認識が増えた結果と考えた。
教育の根幹・本質を理解した上での教育実践を目標に取り組む。

2）「学校運営などに学生の意見が反映されているか」の項目は大幅に上昇した。
しかし、【学校運営】大項目はわずかに低下した。
原因としては、情報システム化による業務の効率化、人員確保の課題がある。DX 推進は R7 年度より強化する計画である。

3）取り組みにより自己評価は上昇した。教育活動の中での取り組みをきっかけとし、学生が主体的に地域と関わり貢献する姿を認めたことは大きい。また、地域全体で看護師教育に取り組む意識が高まっている。継続的により一層活動を進めていくことが社会貢献につながる。

3. 教育実績：(令和６年度和歌山県立高等看護学院自己評価（総括的評価）結果

１）定員充足率100％を維持、入学者は高い確率で卒業（94.0%)、国家試験合格100％であり、当学に入学した学生は高い確率で看護師になるという夢を叶えることができている。
しかし、学生確保は困難な状況となってきている（入学者40名)。当学での教育を希望し、当学の考えと一致する学生をミスマッチなく確保し、引き続き質の高い看護師養成を目指す。

２）卒業生は県内就職率（93.6.％）が高く、県民に当学が果たす役割を果たせている。

３）看護師養成のための指導者・教員養成への貢献や学会発表等で看護教育界への貢献ができている。

４）教員のキャリア支援（教務主任研修・中堅期研修等様々なキャリアに合わせた）を継続している。

【令和６年度　重点課題評価】

	R６年度重点課題	評価概要
Ⅰ 教育内容の充実	1. 新カリキュラム３年目の実施・評価	・11 月と２月に新カリ評価会議を実施した。 ・教員の交代等もあり、新カリ全体の理解不足があり、改めてカリキュラムマップの整理を実施した。 ・新カリにより重点強化したシミュレーション教育は、実習場面で活用できたとの反応が学生より得られている。「気づき・思考・判断」という臨床判断能力の向上に繋がっている。 ・各科目での重複内容および新を進めるための時間・人員の調整不足の課題が確認された。再申請を視野に入れ、カリキュラムの整理を行っていく。その際、社会の動向や和歌山県の医療を鑑み、新たな講義内容や実習施設なども開拓する必要がある。
	2. 学生個々の強みに応じた学習支援	・個々の学生支援への明確なアプローチ方法を行動化するため『強み』に焦点を当てた強化期間２年を終了した。(教育概要冊子 P18 参照) ① 学生への関わりに向けたアプローチ (強み確認・フィードバック) ② 教員の理解促進（講義 10 回）：出席率 41.6% ③ 学生の理解促進（講義）：1・2 年 1 回/年、3 年 2 回/年 ・学生の反応（事後の感想・意見）：自己理解・自己肯定感・視野の広がり・他者への感謝等講義におけるねらいの反応がある。 ・教員の反応：強みを意識した会話は増えている。しかし、教員自身がいまだ理解不十分と認識しており、行動化への継続的アプローチは必須である。
Ⅲ 教育環境の整備	1. DX 社会に適応できる教育環境の整備	・今年度より電子テキストを導入した。 ・DX 推進にむけて、アドバイザー・医務課・なぎ看護学校と連携し DX で実現したい内容を整理し検討を進めた。 ・DX 推進にあたり Wi-Fi 環境を整えることが必須である。 ・R8 年度の実現をめざし、R7 活動していく。
	2. 安心・安全な環境を保証する合理的配慮指針の確立	・障がいのある学生支援に関するガイドライン策定 ・職員周知（8 月）学生周知（9 月） ・担当者３名：合理的配慮研修会参加 ・職員全体への合理的配慮学習会開催（3 月） ・R6 年度配慮申請や相談はなし。 以後、事例を重ねながら適切な対応を目指し、学習会も継続。
	3. 組織における協働体制の確立	・教務事務採用、教務主任２名体制、教務室環境整備のより業務整理を図り、協働体制の基盤づくりを実施した。業務の整理、効率化に関しては一定の成果をみた。今後は、実践者同志での協働がより重要となる。

令和７年度　和歌山県立高等看護学院重点課題

令和７年４月１日

ビジョン	変化にしなやかに適応し、“看護が好き”と、生涯にわたり活き活きと実践し続ける質の高い看護師を輩出する学院
組織目標	Ⅰ．教育内容の充実：アップデートしながら最善を追求する教育 Ⅱ．教職員の人材育成：個の尊重と成長・組織としての成長を目指す人財育成 Ⅲ．教育環境の整備：いきいきと学ぶ・働く環境の保証 Ⅳ．学生確保：学生・学院双方のニーズがマッチングする学生の確保
R7 年度 重点課題	Ⅰ．教育内容の充実 １．新カリキュラム強化改善 ２．学生個々の強みを活かした学習支援
	Ⅲ．教育環境の整備 １．DX プロジェクト推進 ２．安心・安全な教育環境の保証（＊ハラスメント・合理的配慮・防災等）
	Ⅳ．学生確保 １．学生確保対策